

備後教区報

第 144 号

親鸞聖人
750回

大遠忌法要が円成

CONTENTS

- ◇大遠忌ニュースフラッシュ
- ◇学僧逸伝 加藤 哲勝 師
- ◇坊守探訪 深津組 専光寺
藤井文子さん
- ◇NEWS & 活動情報
- ◇予報・インフォメーション





大遠忌

News flash

大遠忌団参風景を特集

「新たな始まり」と位置づけられた親鸞聖人750回大遠忌法要は平成24年1月16日、本山でのご正当の大遠忌法要をもって満座となった。ご門主はご消息の中で「新しい体制のもとで、一人ひとりが抱える課題を大切にし、お念仏を喜び心豊かに生きることのできる社会をめざしましょう。」とご教示され、混迷する現代社会の中で念仏者の歩むべき方向性を示唆された。備後教区でも僧侶、門信徒が一体となった大遠忌法要はもちろんのこと、記念行事やイベントに取り組み「新たな始まり」の胎動を感じさせ、各地で大遠忌ムードを盛り上げた。中でも平成23年4月から11月まで56日間、一一〇座に及ぶ本山での大遠忌法要には教区から組単位で47回にわけて本山団参が行われた。その数六千十五人で、50年に一度という遇い難き法縁を結んだ。以下、各組における団参風景を写真で追った。(写真提供〓各組担当者)

教区から六〇一五人が50年に一度の勝縁に



▲備中里組



▲中組



▲奥組



▲深津組



▲鴨川北組



▲鴨川組



◀ 比婆組



◀ 三次組



◀ 御調西組



▲ 御調東組



▲ 世羅組

▶ 沼隈西組



▶ 沼隈南組



▶ 芦田組



▶ 神石組



▶ 三谿組



写真提供にご協力いただき
ありがとうございました。

Close-Up-Bingo

クローズアップ読後
Gohonen Kiseiden Vol. 7三谿組 法専寺 第15世住職
宣教院 加藤 哲勝 師

備後学僧逸伝



(1873~1940)

加藤哲勝は甲斐和里子の『草かご』に出てくる人物で足利浄円の親友であり角坊別院の輪番であったと記されています。角坊は別院から本山飛地境内地となり新しく建物や境内を整備されて大遠忌ご正當を迎えられましたが、かつて角坊の荒廃を嘆いて復興に力を尽くした歴史があることはあまり知られていません。加藤哲勝師の生涯を追うなかに当時の角坊や時代背景を紹介したい。(文中敬称略・文責〓教区報専門委)

幼にして慈父と死別す。性格明朗温情に富む。是山恵覚勸学の光宣寮に宗学を究む 龍衆の誉あり。

齡二十四歳、先学の意志を継ぎ自坊の移転を決行す。

続いて海外布教の必要を感じ渡米して米布の間に在ること九年、其の足跡随所に在り。就中ホノルル・ヒロ両別院の行績、顕著なり。帰国の後、自坊の本堂を再建し、続いて宗祖ご往生地洛西角坊別院の荒廃を痛感し、その復興を念願し自らすすんで輪番となり全国に遊説して「千萬人講」を組織し「染香寮」を建設して参詣者を誘致す。師は是等の人々に祖徳を語り、宗祖の面影を偲ばしむるものなり。是れ全く師の信念の然らしむるに外ならず。師は大方の外に中央仏教学院、及び足利瑞義師の真宗学研究所に講師として其の蘊蓄を傾たり。

師は多く他郷にありし如くなるも繁中能故山に歸りて、山川を樂しみ草木を愛し、郷党と共に法義示談に時を過ごせり。

師の晩年は師としては理想的余生なりしと云えども、病を得て宗祖御往生地、還浄殿に於いて大往生を遂げられしことは師の最も満足せられしことにして、是れ亦た不可思議の因縁といふべきなり。時昭和十五年十二月九日 享年六十八歳

生前の親交を偲ぶ 斯くの如し

唄日處世間 如蓮華不著水 心清染超於世 誓首無量寿尊

佛子浄圓(足利浄円) 謹書

勸学・是山恵覚の光宣寮における最初の所化

■生死・寺院の意味に苦悩

明治6年10月2日、甲奴郡法専寺の加藤最勝、みす子の長男として出生。11歳で父を14歳には祖父を亡くし、苦勞のなか母と祖母により養育された。

13歳で博練教校入学、16歳で進徳教校に転じて学ぶが、しばしば不慮の災厄に進退きわまり進徳教校時代には幾度か死を決しかける程だった。

どうせ死ぬならと死後の問題を解決に**是山恵覚**を訪ねたところ「何が故に自殺せねばならぬか、また自殺すれば如何なる利益を得べきや」と問われて教えを仰ぎ、たとえ自殺して人生の責任と義務から逃れたとしても、後生に煩悶は増すとも減じることはないし、世を厭いながらこの生で煩悶の根を切る方法を講ずるのが急務であろうと死を思いとどまった。

明治22年¹⁸⁸⁹、恵覚が創設した**光宣寮**の最初の所化として入寮、宗学を8年

専攻したことで「不平のもとに満足おこり煩悶の中より歡喜の光明を放つ、斯くの如き境遇となつたならば、一日も永く人生にあつて佛恩に報い国恩を報じる」と転迷した。恵覚に連れられ23年に京都の光尊(明如)宗主のもとで得度、26年に法専寺住職となる。

29年¹⁸⁹⁶、当時の法専寺が山上にあり参詣に不便だったため「見佛聞法淨教其可弘哉」と、仏を拝見し御声を聞くことが出来ぬのなら寺院は何のためにあるのかと発起、寺の移転を決行した。

ちなみに哲勝は生涯ほとんど借家に住居して自己所有の家に住むことは少なかったようだ。「家屋の大切なのは身体があるからで若し人が居なくなつたならば必要はない」「予の家は元より借家住居であつて、私の所有物ではないけれども大切な御仏の大悲を宣伝すべき御親所有の布教場」と語られている所に決意の一端が伺われる。

最初は庫裏を道場に法縁を結んでいたが、後に海外開教を経て本堂再建。

「当時、誠に僅少なる檀家を擁する当寺院に於いて檀家外よりも多くの熱心なる応援と多大の義捐を得て伽藍建立」と讃えられるところに師の人柄やその行績が語りえて余りある。



▲哲勝師の頌徳碑(法専寺境内)
龍大学長・森川智徳による題字
裏面は足利浄円の上記説明文



▲ハワイにおける開教使や日本人学校関係者
哲勝（後列中央） 悌九（前列中央右） 浄円（中央左）

■北米・ハワイへ開教

その後も三溪組組長や教区会集を当選するなど備後で数年過ぎすが、明治35年¹⁹⁰²9月から北米に社会学研究のために留学。37年10月に本山の命で開教使としてハワイに向かった。赴任先のホノルル布教場は39年に足利瑞義が本山より特派され教線進展の実績を認定、上申された事でハワイ別院に昇格されている。これは邦人を大いに歓喜せしめ、且つハワイ本願寺伝道を中心を明らかにしたものであったが、それを裏付けるかのように同年、哲勝の尽力でモイリリ本願寺の布教場創設。

40年にヒロ布教場（後のヒロ別院）に移ってからハバコウ本願寺の布教場を創設し、哲勝夫人もヒロ別院の婦人会発足に関わるなど大きく貢献。

41年開催された第一回開教使会議

ハワイ開教に従事。昇龍の如く活躍する学僧

（ハワイ議制会の前身）にも関係した。広島からの移民が多かった事や今村恵猛の親戚筋も影響するのだろうが、今村清子夫人や日野義雄の姉弟、足利浄円等をはじめ、哲勝の妹婿にあたる真澄瑛峰（世羅組善行寺）や哲勝実弟の小林悌丸も本願寺支援の日本人学校校長を務めるなどハワイ開教に備後関係者も少なくなかったようだ。

■本山に表彰、龍衆の誉あり

明治43年¹⁹¹⁰6月帰朝。同年10月6日、本山より開教の功績により第一種表章を授けられ、44年1月から臨時法務院用係を務められた。その間、大勢の参詣に対応するために自坊の新本堂を建てられており、45年¹⁹¹²4月に落成。

同年7月に宗教および慈善事業視察のために欧米各国に渡航。しかしこれは病気で半ばに帰国したようだ。

大正2年¹⁹¹³、木辺派の木辺孝慈法主が「友人の寺へ寄る」という名目で法専寺へ立ち寄られ御巡教。未曾有の群衆があり法悦されたと伝わっている。

木辺孝慈（大谷尊行）は22世光瑞の

切進学陸須忸怩 況於去己寄慶儀

あなたは宗学の道を更に昇られ、気恥ずかしい思いがしています。いわんや己を去って慶儀に寄っておられるのなら尚更です。



▲哲勝は大正6年編集発行の『現代仏教家人名辞典』にも写真付で掲載されている。

弟で木辺家に養子、法主となられた方が、哲勝の師・是山恵覚が21世明如に頼まれて木辺派本山綿織寺に行くようになり明治33年¹⁹⁰⁰から法主の待講を務められているなどの縁もあった。

この後も法主は備後をご巡化されて浄円や哲勝も随行したが、どうやらこれは光瑞宗主の不興をかったようだ。

大正8年¹⁹¹⁹、大阪南区西濱の徳浄寺住職を拝命し、法専寺は子の哲鱗に譲っている。また浄円の同朋舎や瑞義の真宗学研究所に当初から関わって、多くの著名人と共に活動した。

大正4年¹⁹¹⁵、哲勝が本山の巡回布教使を命じられた頃に恵覚は左の歌をよみ書を贈られている。龍のように活躍している哲勝の姿が偲ばれるようだ。

唯首素心猶未滅 答究宗蔵答大悲

ただ当初からの思いは今も滅していません。宗蔵を究めること、大悲に答えていくこと。（恵覚、光宣寮開講式で吟じて哲勝に書を贈る）

■一時は本願寺教団を離れる

開教関係の本によれば哲勝は本願寺教団を離れたと記される。明治44年¹⁹¹¹に浄円が僧籍返上した影響もあるだろうが周囲の人間関係をみても仏教者として清廉で純粹であろうと活動をされた方が多い。同じ恵覚門下の高津正道は大正11年¹⁹²²の日本共産党の創立に中心メンバーとして参加。浄円も協力した水平社に呼応して本願寺教団で黒衣同盟が起こり、近畿一帯の被差別寺院住職に檄文を発すのもこの頃である。

また『中外日報』創立の真溪派骨とも親交があり、社会情勢にも鋭敏。

仏教大学ストライキ¹⁹²⁹で知己の森川智徳、梅原貞隆、中井玄道らが連袂退職しているように、当時内局の枢機に近い立場でありながらも自らの宗教的信念と教団の方針が合わずに離れていった一人なのだろうと推測する。

■角坊別院の輪番へ

角坊は20世広如が「長安馮の辺、押小路の南、万里小路の東」と記される親鸞の往生地（叡山里坊・善法院）を調査させて、山の内の地が万里小里と呼ばれていたことから山之内御堂田の地を考証し、洛西の善法院を特定、取得建立されたものという。（現・柳馬場通を万里小路とみるなど諸説あり）広如は坊舎に「還浄殿」と扁額され、

角坊別院の荒廃を嘆き、誘致と復興を念願

聖人が善法院の一角の草庵に住んだことから角坊と名付けられたようだ。

浄円も角坊を他力易行の道を歩むものの聖地として懐かしみ寓居されましたが、浄円自身が述べるように角坊の荒廃を痛感し、講や学寮を興し参詣者誘致や復興した人物が哲勝であった。

それに伴い「真宗学研究所」も角坊の在所である御堂殿町に移り『同朋』等の編集出版をされ、修道講座や婦人講座など開催。「中央仏教学院」を現在地へ誘致建設にも関わったようだ。

この地を「御坊さん」として親しみ、この場所のみ教えに遇い、育てられた方は多いが、これらはこの時代に角坊を復興しようと哲勝、浄円、瑞義らが働きかけた結果によるものが大きい。

以下は昨年9月に亡くなられた小林悦子女史が哲勝や祖父悌丸たちが角坊復興に懸命に動かれた真実が埋もれ、消えつつある事を惜しみ証言された内容を各資料と照合し記すものである。



▲新谷道太郎翁

幕末の維新志士の一人で、坂本竜馬や山岡鉄舟と深く交わり、鳥羽伏見の戦いで幼き明治天皇を背負って避難する等々の逸話をもつ。

■角坊の千万人講

福間浄観(是山恵覚の師)に師事したこともある新谷道太郎は当時の状況について次のように語っている。



現在の角坊(上写真)とかつての角坊の聖人像(下)

「昭和5年の或る日、池上の本門寺に参詣したとき、ここは日蓮上人が遷化の寺であると聞くにつけ、真宗の祖師親鸞聖人御往生の地は何処であろうかと気がかりになり、信者に聞いても明かでなく遂に本願寺に尋ねてみると、京都角坊別院こそ祖師御往生の地であると教えられ早速参詣したのであった。角坊は(中略)本堂は粗末で古くて且つ小さい、本門寺とは比較にならぬ、これが祖師上人御遷化の地かと疑いが起こる程であったが、輪番加藤哲勝氏に聞けば間違いのないとの事

で、愈々驚いた。

『祖師様のみあと慕ひて来て見れば嬉しくもあり悲しくもあり』

何故にかくも粗末なのであらうかと、問えば『今より七百年の昔、この地に善法院という天台宗の寺があつて、住僧は上人の御舍弟・尋有僧都であり、上人は八十余歳の時、弟を頼つてこの寺に寄寓せられ(中略)御遷化遊ばされたと言ふことである。然るに本願寺では天台宗付の此の寺を如何ともすることが出来ず幾百年の間そのままとなつていた所、善法院が相国寺の所有に帰したので、今から80年前に廣如上人の御世話により本願寺の手に移り、この地に伽藍を建築せんものと木材を集められた所、相国寺より宗旨違いの寺院を建立することを拒んだ為に詮方なく、太秦にあつた孔子廟の空家を譲り受け、之を善法院の後に建てて角坊別院と称へ今日に及んだ』と言ふことで、粗末な訳はわかったが、勿体ないことである。

或る日、角坊に別院輪番を訪ひて、今後の計画を尋ねた所、いま千萬人講と云うものを組織して復興の御計画がある。その要旨は

一、千萬人講を結び、多数の人にこの霊地を知つて頂きたい。

一、聖人の遺徳を慕うものの総てが、

此霊域は我祖御入滅の地であり、即ち我物であると云う自覚を持つて頂きたい。

一、この霊地を聖人の真精神である純信仰の地にしたい。

一、求道に志ある人はこの霊地に心置きなく滞在して、法雨に浴して頂きたい。従つてその設備をしたい。

一、講員は入会の際、金一円づつを出して頂きたい。

一、毎年講員の永代経を修して法縁を結んで頂きたい。

という、まことに御立派な御計画であるので大いに喜び、私もはや老体、あまりの御役にも立ちますまいが最後の御奉公にと御世話方を願ひ出でた。角坊では直ちに之を快諾せられ左の通り委嘱された。

千萬人講々員勧誘委嘱候事

昭和5年6月6日、本願寺角坊別院
新谷道太郎『維新秘話』より

■染香寮と中央仏教学院

新谷翁によれば、当初は本派寺院に講演してまわり協力要請していたが、祖師聖人往生の寺を再建することに消極的援助すら拒絶される有様で、揶揄妨害もあり困難を極めたという。

全国各地に講員を募り、本願寺からも使僧の出張をうけて応援があり、結

果的には多くの賛同をえて6ヶ年に七千円が集まり、四間十間の主屋と外に付属の建物を加えて、合計約百坪の宿舎を建築された。当時は角坊の辺りに宿もなかったため夜具も三百人前そろえて作り、これを講員の無料宿泊所にあてたということである。

また哲勝は角坊で「染香寮」という学寮を興して後進を指導したというのが公式記録によると昭和2年¹⁹²⁷5月28日付で哲勝が角坊参勤となり、10月2日に角坊門前に山内慶華寮が開寮と記される。翌年¹⁹²⁸7月15日に中央仏教学院が角坊別院の隣に移転とされ、哲勝は7月12日付で学院の録事、10月13日に学院講師を任ぜられている。

しかし、どうやらこの時期には学院



▲昭和12年頃の角坊日曜学校。哲勝作詞の校歌もあった

の施設はまだ整ってなかったらしく、むしろ誰が見ても荒廃を歎かれる程で「中央仏教学院を建てたのも哲勝の尽力」と、悦子女史に言われる位の状況に近いものがあつたと思われる。

学院は4年¹⁹²⁹2月20日高等科設置、6年7月には女子部を設置されているが、この頃『染香寮』で哲勝に学んだとされる為国正念、拓植義弘、岡野亮震といった開教使やその婦人たちは中央仏教学院の卒業となつていたので、実際のところ哲勝の学寮は学院の前身あるいは同列の扱いであつたようだ。

哲勝は4年6月22日に輪番助勤、8年¹⁹³³3月に讃衆名簿に登録、4月25日に別院輪番に任ぜられている。

■甲斐和里子と等持院に住んだ



▲小林悌丸 哲勝の弟・悌丸は角坊が染香寮や日曜学校など多忙になるにつれて、

その手伝いに昭和11年¹⁹³⁶に孫娘の悦子連れてハワイから帰国している。

当時は等持院(禪宗寺院)の中にある長屋で哲勝、甲斐和里子や小林悌丸の家族が三軒並びあつて住んでおり、ここから角坊に通つたようだ。

甲斐和里子の孫の甲斐道太郎によると「他に郷里らしいものを持たない

初の親鸞聖人像、中央仏教学院の建設など関与

我々にとつて等持院の『おばあちゃん』と『は正に郷里の感じがした』と語られる場所である。

桐溪順忍によると足利瑞義も一時、等持院の甲斐宅に住んでおり、毎日間之町の真宗学研究所へ通われたという事だ。また「蘭会だというて月に一度、瑞義、中井、加藤、浄圓等の諸師と一緒に等持院を荒しに行ったものだ」と語られているように関係が深い。

新谷道太郎も蘭を描く会が催されたときに参加されたり、角坊新築移転を祝つて哲勝に絵を贈られている。

昭和13年¹⁹³⁸には大谷尊由のはからにより角坊に尊由の別邸が移築されたので庫裏の形にして使われたようだ。



▲尊由別邸が移築された

◀聖人像台座に奉納記録
御佛の至心ひとつ信樂して
いだかれてゆく弥陀の浄土へ



■角坊の親鸞聖人像

かつて角坊にあつた親鸞聖人像は哲勝が輪番の際に作られたものである。

「大阪の鉄工所の方がよく角坊に来ておられた、この方が聖人の像を寄付された」といわれているが、その奉納者の名は廣瀬精一。幼いわが子を亡くしたことで真宗の教えに深く感じ入り、全国各地に親鸞聖人の銅像を寄贈した人として知られている。

歴史的真相かどうかは不明だが、親鸞聖人の銅像は当時どこにも作られてなかったため角坊別院の像が日本初という評判であつたようだ。

余談だがこの後、広瀬精一により東京・広島・大阪・新潟などに同型の像が建てられたが、その一つは戦時中に原爆にあい「ノーモア・ヒロシマ」を訴えて平和を願うシンボルとして広島からニューヨーク本願寺仏教会に寄贈された「被爆親鸞像」で知られている。

いづれにしても、哲勝たちと縁の深い角坊の聖人像は戦時中の供出で失われ、同行によつて見つけ出された像の傘だけ残された。滅後の今も聖人の教えが此処に残り在世を偲ばせるかのように角坊門前に掛けられている。

(取材協力) 法専寺、善行寺、小林家

(主な参考資料) 加藤哲勝『随想漫録』、新谷道太郎『維新秘話』、『布哇日本人移民史』、『布哇開教35年記念史』、『開教百年史』等

坊守探訪

VOL.34 最終回

お寺から地域へ文化を発信したい 『音楽寺』として15年

今回お訪ねしたのは、備後教区ボーモ
リーズのコーラス指導で皆さんよくご存
じの、深津組・専光寺の藤井文子坊守さ
んです。福山市大門町にある英数学館高
校の前を通り、鋼管病院方面に進むと左
手に専光寺さんの看板が見えてきます。
お寺の境内の入り口には、専光寺の別名
「音楽寺」の石碑がありました。本堂右
手には4年前に完成された木造二階建て
の門徒研修会館があり、その一室でお
話を伺いました。(聞き手〓立神多恵香
委員、長裕美委員、写真〓山下瑞円)



深津組 専光寺
藤井 文子 坊守

教員の傍らオペラ歌手として活動

Q こんにちは、早速ですが、
坊守さんはオペラ歌手、福山シ
ティオーペラ代表、NHK福山文
化センター講師など様々な顔をお
持ちですが、今日は専光寺坊守と
しての話を聞かせ頂ければと思
いますので、よろしく願いま
す。

A こちらこそよろしくお願い
します。

Q でははじめに、坊守さんは
どういうご縁で専光寺へ来られま
したか。

A 私はもともと神戸の出身
で、主人は広島法の法円寺の四男で
す。当時は2人とも愛知県で大学
の教員をしていましたが、昭和52
年に住職の兄である松永の東蔵坊
の住職のすすめで3歳の長女を連
れて3人で入寺しました。

Q そうなのですか。お寺へ入
ることになって如何でしたか。

A 当時私は教員の傍ら、名古屋
でオペラ歌手として活動してい
ましたので、お寺へ入寺すると

いう事には、やはりカルチャー
シヨックを受けましたね。昭和58
年に愛知を引き上げてしまうまで
は、住職と大学の休みを利用して
行ったり来たりしていましたが、
福山に落ち着いてからは、ここで
今私に出来ることをやっていこう
と決めました。

住職の支えがあつて

Q 境内の入り口に「音楽寺」
と石碑がありました。そう呼ば
れるまでには色々ご苦労もあつた



のではないですか。

A そうですね。最初はなかなか受け入れてもらえませんでした。初めてのリサイタルの時などはドイツ歌曲が得意だったのでドイツ歌曲のリサイタルを開いたら、ご門徒の方が、「お寺の若坊守が何かするらしい」と普通の法座に参られる感覚で来られるわけですよ、来てみたら私がドレスを着て歌っているわけでしょう。みなさんビックリして全然受け入れてもらえませんでした。ですから次回はしたら皆さんに喜んで頂けるかと考えて、着物を着て日本の歌をうたったり、太鼓を入れたり色々考えました。

Q それは皆さんにとってもカルチャーショックでしたね。今でこそお寺のコーラスは一般的になりましたが、30年ほど前にオペラとなると難しかったかもしれませぬ。

A そうですね。でもその中で、住職の支えがあったからやってこれた部分は大きいです。住職のお母さんは沢山の肩書きを持っていて、女性もどんな世の中に出てやりなさい、と言う考えの方だったので、その中で育った住職も、

毎日を精一杯生きていきたい



私が「大変だからやめようか」と言うのと「どうしてやらないの、頑張らなさい」と反対に背中を押される感じでした。

Q そうですか。良い理解者がいてくれて幸せでしたね。

A お陰で15年ほど前に総代会で、専光寺は音楽を特徴とした教化活動をしていきたいということで「音楽寺」として活動を進めていくことになりました。

一流の講師に指導

Q この会館もとても立派な建物ですが、そういったことに利用されているのですか。

A そうです。昔の寺子屋のよ

うに専光寺から地域へ文化を発信したいという思いから、ご門徒だけでなく、沢山の方に利用していただいています。歌はもちろん、英会話から、イタリア料理教室、育児相談、大人のバレエ教室など10以上の教室が開かれていますが、いずれも一流の講師の方に来て頂いて指導が受けられるのが自慢です。会場費は頂いておりませんし、月謝も「お寺価格」で、不足分はお寺で補助しているのですが、なかなか厳しい部分はあると思いますが、1人でもお寺にご縁が出来れば良いなという思いでやっていきます。「コールのの」といって少女少女の合唱団があるんですが、それなどは、募集段階で、お寺で合掌礼拝をしても良いという人を募って、練習の前に15分ほど話をしてからレッスンを始めるようにしています。

Q それは素晴らしい事です。お寺で補助も大変ですね。

A そうなのですが、「お布施は還元するもの」というのが住職の考えなので。

両親の死、葬儀を縁として

Q そうですか。では次に、最初はお寺に入ってカルチャーショックを受けた坊守さんが、現在は何度かをされて僧侶となられているわけですが、何かきっかけがありましたか。

A 両親が相次いで亡くなった、色々考えさせられたのがきっかけです。お寺にいと葬儀のご



縁にあうことが多いでしょう。お年寄りから若い方まで年齢を問わず亡くなっていられる。明日はわからないという事を常に感じています。その中で毎日を精一杯生きたいと気づかされました。今では仏縁に出会うきっかけを作ってくれた住職に感謝しています。

Q 住職さんは今年から、兵庫教育大学の教授から、宗門校の岐阜聖徳学園の学長に就任されましたが、法務はどうされているのですか。

A 大学の教授の時から3泊4日の勤務以外の週末には住職が帰ってきました。留守の時は私も手伝っていました。今は次女が結婚して副住職が来て、とても頑張ってくれているので、私は段取りとスケジュール管理をしています。

好きだからこそ出来る

Q では、お寺の行事について教えてください。

A 毎月10日の常例布教と、御正忌、彼岸会、花祭りなど年間20回の法座があります。それ以外に婦人会のコーラスや、0歳児からの「子育て支援うさちゃん教室」

青少年少女コーラス教室などです。

Q お斎などがありますか。

A 報恩講やサマースクールの食事など、婦人会の方が準備してくださいます。

Q そうですか、お寺の行事だけでも盛りだくさんなのに、文化センターの講師やオペラの教室、ピアノレッスン等々、あげたらきりがなくいろいろな仕事を抱えているしやいますか、そのバイタリティーはどこからくるのでしょうか。

A 良く聞かれるのですが、総代や仏婦の役員をはじめ多くのご門徒さんが、まるで親兄弟のように助けて下さること。そして、とにかく忙しくしているのが大好きなんです。嫌いな事をするのならストレスになると思うけど、好きだからこそ出来るのだと思います。それにいろいろな忙しさにいるおかげでいろんな人間関係が出来て「千の風になつて」の秋川雅史さんにも福山シテリオペラに出て頂いています。「ベルサイユのばら」の池田理代子さん(マンガ家)とは音楽を通じて友だち付き合いをさせて頂き1月には専光寺の親鸞聖人750回忌大遠忌法



要記念で「良く生きる事 良く死ぬ事」と題して講演をしていただくことになっています。

出来ることを出来るまで

Q そうですか。先程頂いた法座予定表にも法座ごとに「暖かくしてお参り下さい」とか「緑の美しい季節です」とか一言添えてあって、そういうところにも気が配りが感じられます。大切な事ですね。では最後にこれからの抱負を教えてください。

A 今までがむしろに突っ走ってきたので、これからは、若坊守と一緒にゆつくりと坊守のあり方を追求してゆきたいと思っています。そして今やっている事をほそぼそと、自分が出来るまで続けていく。というのが坊守としての抱負で、個人としては来年歌

を始めて50年、ボランティアコンサート500回が来るので何か出来たらいいな、と思っているところです。

Q これからも、まだまだお忙しいですが身体に気を付けて下さい。今日はありがとうございました。

取材中も絶えず色んな人の出入りがあり、地域に開かれたお寺だなあと感心させられました。お寺で開かれている教室も魅力的なものばかり、そのうち何かチャレンジしてみたいと思いました。パワフルな坊守さんに元気をいただき、忙しいを言い訳にいろんな事から目を背けている自分にちよつと反省した取材でした。

2005年から7年間、坊守探訪を担当させて頂きましたが、いよいよ今回が最後の取材となりました。それぞれお寺の事情は違っても、そこで頑張っておられる皆さんの姿を見せて頂きとてもありがたく、勉強になる7年でした。これまでお話を聞かせて下さった皆さん、つたない私を支えてくれた教区報担当の皆さん、色々有り難うございました。

投稿者の 寄稿

縁を紡いで…絆に
訪ね・出会い・聞き・繋がる・活動を

震災支援ネット(びんご)活動レポート 事務局 小武正教

隠されていた問題を露わに

「まず現場へ行こう」、最初は正直それが東北へと向かわせました。とりわけこの度の震災は、4基もの原発に事故が同時に起きるという世界でも初めての出来事でもあります。そこで見たこと、聞かせてもらったことは私自身がそれまで見ようとしなかったものを問いかけられることでもあるように思います。

顔の見える関係を

最初是有志で4月に訪ねてから、5月からは三次組と有志が、そして8月からは震災支援ネット(びんご)として計年内に5回東北の地を訪ねました。

当初、「どこに行つていいのか、何をしにいくのか」もよくわからないままの東北行きでありました

が、何度か通う中で、行く意味が見えてきました。

① 遠く広島の地から訪ねていくことは、行くだけで大変喜ばれる。

② 野菜、米を持って行くことで、より多くの人との繋がりを感じてもらえる。

③ 出来るだけ同じ所、同じ人を訪ねていくことで、顔の見える関係を作り、「忘れていない」「メッセージを感じてもらえる。

遠距離で、行くことが出来る時間が限られ、出来ることは何事もないのかもしれない。でも今、福島に、宮城の地に「地震・津波・原発事故の中であの人が頑張つて生きておられる」という実感は持つことは出来ます。

ご門徒の思いを届けるために

必要物資は時機と場所によって異なります。しかし避難所・仮設で常に必要なもので、私たちが準備し届けられるものに、野菜や米があることに気づきました。そこで三次組の仏教婦人連合会の協力を得て、東北へ出かける前に、野菜や米などを集め、宅配便で届けさせていた

だいています。教区内でも多くの皆さんが協力下さっています。(現在ご縁の出来た5箇所を中心届けさせて頂いています。福島県南相馬市勝縁寺・仮設入居門徒。飯館村浄観寺仮設入所先。善仁寺と門徒。いわき市好間幼稚園。宮城県南三陸町やすらぎ苑・仮設住宅。)

生活用品の支援を

6月末に、福島県会津若松市の本光寺のご住職より、仮設住宅に入居のために必要な生活用品支援の依頼があ

訪問した場所 ④-4月、⑤-5月、⑥-7月、⑦-8月、⑧-10月



▲入谷小学校非難所 (5月)



▲国見仮設交流会 (10月)

りました。仮設入居からはお茶碗一つから全部自己負担となります。そこで震災支援ネット（びんご）が立ち上がり、多くの皆さまのご協力を頂き、生活用品一式（一万二千円相当）の資金を備後教区内外の126人の皆さまから、最終的に204軒分・二百二十四万六千三百円を頂き、本光寺様へ届けさせていた danko とが出来ました。そしてその品は福島第一原発から20キロ圏内の櫛葉町の人たちが入られた会津美里町の仮設入居に送ることが出来ました。

問い返される声と向き合って

「原発は絶対安全」といつて、過疎地に都会の電力を供給するためにつくられました。しかし事故レベル7の事故がおこり、今ふるさとを離れざるを得ないご住職やご門徒、そして放射能に日々の生活を脅かされている人々を訪ね、お話しを聞いてきました。「もう一度家に帰って生活が出来るだろうか?」、餅つきの交流会の中で、なにげなく語られる一言が心の中に残ります。「子どもたちを外で自由に遊ばせることが出来ない、

子どもは本当は避難させないとい
けないはず」という言葉に、今私
は何が出来るのかが問われていま
す。

震災の中を生き抜いておられる言葉は、今のこの現実を起点に、日本のこれまでを問い返えさせる言葉であるように思います。親鸞さまは「世のいのりにこころを入れて」と『ご消息』25通に述べておられますが、そこに私たちの作ってきた社会の歴史(業)と向き合い、底に流れる深い願いを聞いてゆけ、それが未来を開く、「御同朋の社会をめざして」ということなのかと思います。

「私たちを忘れないで」

5回目に訪ねた福島県の訪問先で、異口同音に私たちに言われたことは、「私たちを忘れないで下さいね」という事でした。原発は終息し、震災は復興に向かって進んでいるというPRの中で、「置き去りにされる」という強い思いがあることが感じられ、被災された皆さまのこれから



▲いわき市好間幼稚園(10月)

い歩みに、細々とでも寄り添って
いきたいとの思いを強くしたこと
でした。

これから震災支援ネット（びんご）としての活動を続けていきます。ご支援・ご協力のほどをよろしく願います。

第1回	4月19日	僧侶4人。
第2回	5月22日	僧侶仲間4人。
第3回	7月18日	僧侶・門徒7人。
第4回	8月21日	僧侶3人。
第5回	10月10日	僧侶4人。
2012年		
第6回	1月6日	10日

3箇所で広島風雑煮の交流会
7日国見、浄観寺入居仮設。8日南
相馬、勝縁寺仮設門徒。9日南三陸
町やすらぎ苑仮設入居者

震災支援ネット(びんご)
代表 高橋了融
事務局 〒728-0003
三次市東河内町 237 西善寺内
HP:<http://www29.atpages.jp/carrybingo/top.html>

教区月報 (十一月)													
10月1日	中四国真宗青年の集い (2日まで 山陰)	4日	少年連盟役員会	5日	ビハークラの里実践学習・活動団体代表者連絡協議会 同朋三者懇	6日	(世羅組善行寺)	7日	仏婦・寺婦基幹運動研修会 教堂常例法座	11日	仏婦連盟お寺訪問	17日	(沼隈南組西光寺)
18日	寺婦連盟学習会	20日	教区門信徒のつどい	22日	門徒推進員世話人会	26日	仏婦連盟役員研修会 (24日まで 新潟)	25日	中四国講員研修会 (26日まで 山口)	27日	後期勤式研修会	28日	門徒総代会研修会 (北部 世羅組善仁寺)
31日	門徒総代会研修会 (南部 鴨川組浄光寺)	11月1日	勤式練習会	1日	広報伝道部会	1日	FM委員会	2日	少年連盟役員会	7日	中四国仏婦連絡協議会 (8日まで 四州)	7日	岡山同宗連部落解放講座

(1月6日まで)

僧侶研修会

『生と死の現在』

～無縁社会、孤独死が問われる現代～

何故、現代葬（直葬、家族葬）が広がっているのか

日 時 2月22日（水） 午前10時30分～午後4時
会 場 本願寺備後教堂
講 師 ジャーナリスト ^{ひもんや} 碑文谷 ^{はじめ} 創 先生

東日本大震災一周忌法要勤修について

東日本大震災発生から、まもなく一年を迎えます。本願寺備後教堂では常例法座に併せ下記の通り一周忌法要を勤めさせていただきます。ご参拝くださいますようお願い申し上げます。

日 時 3月11日（日） 午前10時
会 場 本願寺備後教堂
講 師 苅屋光影師（本願寺派布教使）

同朋講座

日 時 3月13日（火） 午後3時30分
会 場 本願寺備後教堂
講 師 萱野稔人さん（哲学者）

特別布教大会

日 時 3月14日（水） 午前10時
会 場 沼隈南組 光源寺
講 師 副団長他団員

レディオ備後、放送時間変更

「お坊さんステーション」が木・金曜日から下記の曜日に変更となっておりますのでご注意ください。

周波数 FM77.7MHz

時 間 月・木曜…午後6時10分頃

インターネットでのラジオ視聴方法

■ <http://fm777.co.jp/pc/index.html>

■ 上記ホームページの左上「ウェブラジオ」をクリック

■ 画面切り替わって中央の「映像スタート」をクリック

※ラジオ放送時間をご確認ください。※動画は固定カメラでの映像です。



教堂常例法座出講者

(敬称略)

1月 法正 良映
(世羅組円超寺)
2月 山下 義円
(奥組浄福寺)
3月 荻屋 光影
(深津組光行寺)

得度許可

おめでとうございます

〔敬称略〕

鴨川組 正福寺

渡邊 慶子(知心)

(平成23年7月30日付)

三次組 西善寺

徳市 喜栄(深心)

(平成23年10月27日付)

教師授与

おめでとうございます

〔敬称略〕

奥組 浄福寺

山下 量円(量円)

(平成23年8月31日付)

敬 弔

お悔やみ申し上げます

〔敬称略〕

鴨川北組 真光寺

前坊守 古孝 サザミ

(9月19日寂)

世羅組 光源坊

前住職 眞教寺 隆明

(11月6日寂)

比婆組 円正寺

前坊守 伊達 美千代

(11月10日寂)

比婆組 西楽寺

前坊守 定光 光子

(11月24日寂)

世羅組 法泉坊

前坊守 毛利 成子

(1月18日寂)

香典返礼

ありがとうございます

〔敬称略〕

三次組 東光坊

善行寺 (9月20日)

世羅組 善行寺 (10月14日)

鴨川北組 真光寺 (11月4日)

比婆組 円正寺 (12月1日)

今後の予定

<1月>

30日 第4連区青年布教使研修会
(31日まで 安芸)

<2月>

01日 同朋三者懇話会(広島)
01日 寺族婦人会連盟学習会
12日 備龍会仏教教養講座
17日 組長会研修旅行(9日まで)
11日 教堂常例法座
13日 教区会研修旅行
(14日まで 津村別院等)
15日 ブロック少年連盟連絡協議会(16日まで)
17日 勤式練習会
20日 常備会
22日 僧侶研修会
23日 ビハーラ藤江荘実践学習
23日 寺族婦人会連盟研修旅行
(24日まで 人吉別院等)
26日 仏婦連盟 ほほえみ講座
27日 部門別・基幹運動研修会、臨時総会(布教団)

28日 基推常任委員会

29日 保護司、民生委員児童委員のつどい

29日 同朋部会

<3月>

01日 第4連区教化連絡協議会
(2日まで 山口)
05日 第4連区布教使研修会(6日まで 山陰)
05日 勤式練習会
07日 連研履修者研修会
08日 寺族婦人会連盟役員会
09日 基推全体会
11日 教堂常例法座・東日本大震災1周忌法要
13日 青年布教使研修会
13日 同朋講座
14日 特別布教大会(沼隈南組光源寺)
15日 定期教区会
21日 門徒推進員実習(ビハーラ花の里病院)
23日 仏婦役員会(新旧引き継ぎ)
27日 得度のための勤式講習会
28日 組長会
29日 備龍会ソフトボール大会

他宗派の大遠忌法要を紹介



▲真宗興正派 興正寺 平成23年11月28日、大遠忌法要4期での御閉扉。HPより転載



▲真宗大谷派 東本願寺 平成23年11月28日、御正當報恩講結願日中での坂東曲



総本山知恩院 法然上人800年大遠忌法要より



知恩院では、平成23年10月に、法然上人800年大遠忌法要が勤修されました。写真は念仏会法要の様子。



知り合いの解体業者さんで旧家を崩すときに出てくる骨董品を収集しておられる方がいます。

先日、古い家から出てきた本が何の本か分からん、読めないというので試しに見せてもらったところ、驚いたことに浄土真宗の法話を取り次ぎされた法縁の記録でした。

どうやら熱心な同行の家だったらしく、昭和三十年頃から広島県内のあちこちの講師を毎月招いて法事説教あるいは講のような法要をしていたことが分かります。

1頁1頁に講師名や法語、絵などが書かれてあり、味わい深く感動して拝見させてもらいました。

「大遠忌待つや念珠にぎりしめ」という言葉がふと目に留まり、みると宗祖七百回忌の数年前のもの…。

はたして次の大遠忌の頃は私たちの周囲はどのようになっているのでしょうか、何を残すことが出来ているのでしょうか。先人にも後の人にも恥ずかしくないように精進したいものです。

(K・F)

